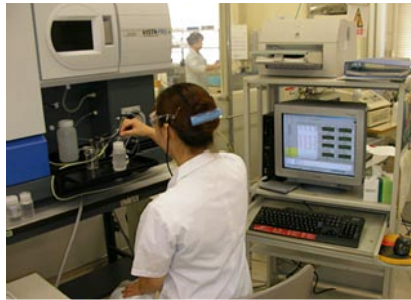


2005年7月28日

太陽誘電：子会社の環境アシストが有害物質分析におけるISO/IEC17025認定取得  
 —群馬県初の取得、化学試験所として分析品質の高さを実証—



太陽誘電(代表取締役社長:小林 富次)の子会社、環境アシスト(代表取締役社長:長谷川 敏泰)は7月20日、財団法人日本適合性認定協会(注1、以下JAB)から、化学試験のうち有害物質の分析をおこなう試験所として、試験所認定に関する国際規格ISO/IEC17025(注2)に適合することを認定されました。本分野におけるJABからのISO/IEC17025認定取得は、全国で9番目、群馬県では初めてとなります。ISO/IEC17025を取得している試験所は、通常、大規模な研究機関か、大企業に属し50人以上の人員を擁する試験所のみで、環境アシストのような規模(従業員数13名)の会社で認定を受けるのは極めてまれです。太陽誘電グループが持つ、化学分析の高い技術を活かすことにより、ISO/IEC17025の認定取得を実現しました。

欧州連合(以下EU)における有害物質規制、RoHS指令(注3)やELV指令(注4)により、部品メーカーは、セットメーカーに納める部品に有害物質が含まれていないことを立証することが一般的に求められつつあります。その場合、測定品質において信頼性の高いISO/IEC17025を取得している試験所での測定を望む企業が増加しています。環境アシストでは、通常1週間以内という短納期対応や、特急対応では1日で速報を提供するという迅速なサービス体制で、従来から分析業務をおこなってきました。今回さらに、ICP分析(注5)によるポリエチレン中のカドミウム、鉛、全クロム(注6)の定量分析でISO/IEC17025認定を取得することにより、分析品質の高さに関して、世界レベルで通用する客観的評価を受けたといえます。このことにより、これまでの少数精鋭による迅速で小回りのきく対応に加え、ISO/IEC17025認定取得で証明された、信頼性の高い分析データ業務を提供していきます。

環境アシストでは部品・包装部材・原材料等の有害物質含有分析のほか、環境計量分析(注7)、作業環境測定を包括した分析業務、リサイクル事業(注8)及びISO取得コンサルティング業務(注9)を行っています。

今回、環境アシストがJABよりISO/IEC17025の認定を受けた、化学試験の有害物質の分析(ICP分析によるポリエチレン中のカドミウム、鉛、全クロムの定量分析)の他、さまざまな部品や製品のカドミウム、鉛、全クロム、六価クロム、水銀、特定臭素系難燃材(ポリ臭化ビフェニール、ポリ臭化ディフェニール)、アスベストなどの分析業務を行っています。ISO取得コンサルティングについては、自社のISO取得の際に蓄積したノウハウ、スキルを社外に提供し、中小企業のISO取得を支援することによって、環境活動の推進役として社会的責任を果たして行きます。

太陽誘電では、環境に関する事業を、子会社である環境アシストに集約しています。トータルソリューションを視野に入れた環境関連ビジネスモデル構築を目指し、運営基盤の一体化による経営効率の向上を図るとともに、人材リソースの共通化で少数精鋭化と環境プロフェッショナルの育成を目指しています。

## 会社概要

名称 : 株式会社環境アシスト  
 所在地 : 群馬県高崎市倉賀野町2947-1  
 資本金 : 3,000万円(太陽誘電100%出資)  
 設立日 : 1998年1月16日(子会社化2004年3月1日)  
 代表取締役社長 : 長谷川 敏泰  
 事業内容 : 分析業務、リサイクル事業、  
 ISO取得コンサルティング  
 従業員数 : 13名  
 問合せ先TEL : 027-346-6114  
 FAX : 027-346-6112



## <用語解説>

(注1) 財団法人日本適合性認定協会(the Japan Accreditation Board for conformity assessment) 日本工業規格(JIS)やISOなどに代表される規格に基づいて、認定、審査登録を行う認定機関。

(注2) 試験所認定に関する国際規格ISO/IEC17025

試験所とは、科学的方法を用いて製品・材料などの特性・性能を決定する試験を行う機関のこと。試験所認定とは、ISO/IEC17025を基準にして、認定機関が試験機関の審査を実施し、試験・校正機関が特定分野の試験を行う能力を有することを認定する制度。

(注3) RoHS(the Restriction of the use of certain Hazardous Substances) 指令

2003年2月にEUで発効された特定有害物質使用規定のこと。これにより2006年7月より、電気・電子機器を対象に、含有するカドミウム、鉛、水銀、六価クロム、ポリ臭化ビフェニール(PBB)、ポリ臭化ディフェニール(PBDE)の6物質の使用が禁止される。

(注4) ELV(End-of Life Vehicles) 指令

2000年10月にEUで発効された使用済車両からの廃棄物の低減、適正処理規定のこと。これにより、2003年7月以降の販売車は原則としてカドミウム、鉛、六価クロム、水銀の使用が禁止された。

(注5) ICP (Inductively Coupled Plasma) 分析

高周波誘導結合プラズマ分析のこと。代表的な無機元素分析の一つであり、多くの元素に対して高感度分析ができる。溶液化した物質を、アルゴンプラズマ中に導入することで、含まれる物質は元素ごとに固有の波長の光を放出する。この発光線を検出することにより、波長から定性分析を、発光強度から定量分析を行うことができる。

(注6) 全クロム

クロムにはイオンの価数により二、三、六価のものが存在しこれらの総称を全クロムという。六価クロムは極めて有害な物質であり、RoHS指令やELV指令でも規制物質として挙げられている。

(注7) 環境計量分析

環境アシストでは、工場排水分析、環境騒音振動分析を実施している。

(注8) リサイクル事業

2004年10月に発表した、光ディスクに使用されるポリカーボネートのリサイクル事業のこと。

(注9) ISO取得コンサルティング業務

環境アシストでは、ISO14001、ISO9001のコンサルティングを実施している。

